

# 令和2年度用 わくわく算数4 単元別学習内容一覧

本資料は、令和2年度用教科書「わくわく算数4」に基づいて、学校での授業と、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。なお、答え合わせについては、児童の実態に合わせて、学校の授業以外の場で児童自らが行うことや、学校の授業で短時間で行うことなどが考えられます。

平時に授業で行うことを想定していた学習活動のうち、学校の授業以外の場( **授業外** )で取り組むこととしている学習活動には**黄色のアミ**をつけています。

## ●一覧表の見方

| 2 折れ線グラフ   |   |       |  |   |  |
|--|---|-------|--|---|--|
| 目 標  |   |       | 指導時数・時期  |   |  |
| ○身のまわりの事象について、折れ線グラフを用いたデータの整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。   |   |       | 6時間(授業内5時間)<br>2学期制：4月下旬～5月上旬<br>3学期制：4月下旬～5月上旬  |   |  |
| (知)・折れ線グラフを用いると、伴って変わる2つの数量の変化の様子をわかりやすく表すことができることを理解している。<br>(思)・折れ線グラフの特徴とその用方を理解している。<br>(態)・変化の様子を折れ線グラフに表して考察している。<br>(態)・表や折れ線グラフに表現することで視覚的に分かりやすくなるよさに気づき、生活や学習に活用しようとしていたりしている。 |   |       |  |   |  |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目 標  | 学習内容  | 授業外で取り組める学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ   |   | 140   | ○既習事項の理解を確かめる。                                   | ・3年「表とグラフ」                                      | ・p.140の「②じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。                                       |
| (課題設定)   | 1 | 26    | ○気温の変化の表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。                  | ・1日の気温変化の考察による折れ線グラフの動機づけ                       | ・予習として、p.26の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。   |
| ①変わり方を表すグラフ  |   | 27    | ○折れ線グラフの意味を理解し、よむことができる。                         | ・折れ線グラフの変わり方とその大小(グラフの傾き)                       |  |
|  | 2 | 28～29 | ○折れ線グラフの線の傾きから変化の様子がよむとれることを理解する。                | ・折れ線グラフのよみ方                                     |  |
| ②折れ線グラフのかき方  |   | 30～31 | ○折れ線グラフをかきことができる。                                | ・折れ線グラフのかき方                                     |  |
|  | 4 | 32～33 | ○変化の様子が変わりやすくなるように、一部を省略する波線を使って折れ線グラフをかきことができる。 | ・波線による目盛りの一部を省略したときの折れ線グラフのかき方<br>・身のまわりの折れ線グラフ | ※p.33の問題4の身のまわりから探す活動は <b>授業外</b> で取り組ませることが可能。  |
| ③2つのことがらを表すグラフ   | 5 | 34～35 | ○折れ線グラフや棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。                 | ・2つの折れ線グラフ、ぼうグラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフのよみ方           |  |
| 学びのまとめ   | 6 | 36～37 | ○学習内容の理解を確認する。                                   | ・評価とふりかえり、活用問題                                  | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は <b>授業外</b> で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

**6時間 (授業内5時間)**

↓

平時の頃の授業時数

↓

**授業外**で取り組む学習活動を除いた場合の時数

予習や復習として、**授業外**で取り組むことができる学習活動の例

※は指導上の留意点

**黄色のアミ**

平時に授業内で扱うことを想定した学習活動のうち、**授業外**で取り組むことができる学習活動の例

## ●年間配当時数

|                             | 1 学期            | 2 学期            | 3 学期            | 年間               |
|-----------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 平時の頃の時数                     | 60<br>(予備時数 5)  | 64<br>(予備時数 6)  | 36<br>(予備時数 4)  | 160<br>(予備時数 15) |
| <b>授業外(黄色のアミ)</b> を除いた場合の時数 | 49<br>(予備時数 16) | 54<br>(予備時数 16) | 27<br>(予備時数 13) | 130<br>(予備時数 45) |

第4学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ わくわく算数学習

| ◎ わくわく算数学習   |   |     |  |  |
|--|---|-----|--|--|
| 目 標  |   |     |  | 指導時数・時期  |
| <p>○ 10 や 100 を単位とする数の除法について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して相対的な見方にもとづく除法についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。</p> <p>(知) ・算数学習を進める手順を知り、ことばや図や式を用いて考え説明する仕方や話し合いのよさを理解する。<br/>(思) ・ことばや図などを適切に用いてわかりやすく説明することができる。<br/>(態) ・学習の進め方に関心を持ち、話し合い活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。</p> |   |     |  | <p>1 時間 (授業内 1 時間)<br/>2 学期制：4 月上旬<br/>3 学期制：4 月上旬</p>     |
| 小単元  | 時 | ページ | 目 標  | 学習内容   |
| (課題設定)   | 1 | 6～9 | <p>○10 や 100 を単位にした 1 位数でわるわり算の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方など算数学習の進め方を知る。</p> <p>○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。</p> | <p>・数の相対的な見方による 10 や 100 を単位にしたわり算<br/>・学習の進め方、ノートのかき方</p> |

授業外で取り組める  
学習活動例と指導上の留意点

1 角とその大きさ

| 1 角とその大きさ  |   |                |   |  |
|--|---|----------------|---|--|
| 目 標  |   |                |   | 指導時数・時期  |
| <p>○ 角について、分度器を用いてその大きさを測ったり、ある大きさの角をかいたりする方法を理解し、いろいろな角の大きさやその和や差について考えたり説明したりすることを通して、角の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>(知) ・角の大きさを回転の大きさとして捉えることができる。<br/>・角の大きさの単位 (度 (°)) について知り、角の大きさを測定することができる。<br/>(思) ・図形の角の大きさに着目し、角の大きさを表現したり、図形の考察にいかしたりしている。<br/>(態) ・角の大きさについて、数学的に表現・処理したことをふり返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めようとしている。</p> |   |                |   | <p>8 時間 (授業内 7 時間)<br/>2 学期制：4 月上旬～4 月中旬<br/>3 学期制：4 月上旬～4 月中旬</p> |
| 小単元  | 時 | ページ            | 目 標   | 学習内容   |
| じゅんぴ   | — | 140            | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・3 年「三角形」  |
| (課題設定)   | 1 | 10～11<br>12～13 | ○まるく開く扇を作り、それを利用して回転の大きさを角の大きさととらえ、単元の課題をつかむ。                               | ・まるく開く扇づくりによる角 (回転角) の学習への動機づけ                                     |
|  | 2 | 14～15          | ○角度の単位について知り、分度器を使って角の大きさを測定する。   | ・角の大きさの単位と分度器を使った測定、直角 = 90°<br>《°, 角, 角度》                         |
|  | 3 | 16～17          | ○辺の長さが短い場合や角の向きが反対の場合に、工夫して角の大きさを測ることができる。<br>○正三角形、二等辺三角形、三角定規などの角の大きさを知る。 | ・辺を伸ばすなどの角の大きさの測定の工夫<br>・正三角形や三角定規などの角の大きさ                         |
|  | 4 | 18～19          | ○1 組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考え、角の大きさの計算ができることを理解する。                            | ・角の大きさの加減、三角定規を使ったいろいろな大きさの角づくり                                    |
|  | 5 | 20～21          | ○半回転や一回転の角の大きさについて理解し、180° より大きい角を工夫して測ったり、その求め方を説明したりすることができる。             | ・180° をこえる角の大きさの測定   |
|  | 6 | 22             | ○分度器を使った角のかき方を理解し、いろいろな角をかきことができる。  | ・30° や 200° などの角の作図  |
|  | 7 | 23             | ○角のかき方を使って三角形を作図することができる。   | ・角の作図による三角形の作図   |
| 学びのまとめ   | 8 | 24～25          | ○学習内容の理解を確認する。  | ・評価とふりかえり  |

授業外で取り組める  
学習活動例と指導上の留意点

・p.140 の「①じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.164 の解答を参照して答え合わせも行う。  
※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

・予習として、p.10 の写真を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。

・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.163 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)  
※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

## 2 折れ線グラフ

| 目 標   |   |       |  |   | 指導時数・時期   |
|---|---|-------|--|---|---|
| ○身のまわりの事象について、折れ線グラフを用いたデータの整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。  |   |       |  |   | 6時間（授業内5時間）<br>2学期制：4月下旬～5月上旬<br>3学期制：4月下旬～5月上旬   |
| (知) ・折れ線グラフを用いると、伴って変わる2つの数量の変化の様子をわかりやすく表すことができることを理解している。<br>・折れ線グラフの特徴とその用い方を理解している。<br>(思) ・変化の様子を折れ線グラフに表して考察している。<br>(態) ・表や折れ線グラフに表現することで視覚的に分かりやすくなるよさに気づき、生活や学習に活用しようとしていたりしている。 |   |       |  |   |   |
| 小単元   | 時 | ページ   | 目 標  | 学習内容  |   |
| じゅんぴ  | — | 140   | ○既習事項の理解を確かめる。                                   | ・3年「表とグラフ」                                      | <b>授業外</b> で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点<br>・p.140の「②じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。<br>・予習として、p.26の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。<br>※p.33の問題4の身のまわりから探す活動は <b>授業外</b> で取り組ませることが可能。<br>・「たしかめよう」「ふりかえろう」は <b>授業外</b> で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)  | 1 | 26    | ○気温の変化の表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。                  | ・1日の気温変化の考察による折れ線グラフの動機づけ                       |   |
| ①変わり方を表すグラフ   |   | 27    | ○折れ線グラフの意味を理解し、よむことができる。                         | ・折れ線グラフのよみ方<br>《折れ線グラフ》                         |   |
|   | 2 | 28～29 | ○折れ線グラフの線の傾きから変化の様子がよみとれることを理解する。                | ・折れ線グラフの変わり方とその大小(グラフの傾き)                       |   |
| ②折れ線グラフのかき方   | 3 | 30～31 | ○折れ線グラフをかくことができる。                                | ・折れ線グラフのかき方                                     |   |
|   | 4 | 32～33 | ○変化の様子がわかりやすくなるように、一部を省略する波線を使って折れ線グラフをかくことができる。 | ・波線による目盛りの一部を省略したときの折れ線グラフのかき方<br>・身のまわりの折れ線グラフ |   |
| ③2つのことがらを表すグラフ  | 5 | 34～35 | ○折れ線グラフや棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。                 | ・2つの折れ線グラフ、ぼうグラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフのよみ方           |   |
| 学びのまとめ  | 6 | 36～37 | ○学習内容の理解を確認する。                                   | ・評価とふりかえり、活用問題                                  |   |

## 3 1けたでわるわり算の筆算

| 目 標   |   |       |  |   | 指導時数・時期  |
|---|---|-------|--|---|--|
| ○1けたでわるわり算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2,3位数)÷(1位数)の筆算や簡単な(2位数)÷(1位数)の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。   |   |       |  |   | 10時間（授業内7時間）<br>2学期制：5月上旬～5月下旬<br>3学期制：5月上旬～5月下旬   |
| (知) ・除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解している。また、その筆算の仕方について理解している。<br>・除法について、(被除数) = (除数) × (商) + (余り) の関係を理解している。<br>(思) ・除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を考えている。<br>(態) ・既習の計算を活かして、答えを見積もりながら主体的に筆算や暗算の計算の仕方を考えようとしている。 |   |       |  |   |  |
| 小単元   | 時 | ページ   | 目 標                                      | 学習内容  |  |
| じゅんぴ  | — | 141   | ○既習事項の理解を確かめる。                           | ・3年「わり算」「あまりのあるわり算」                         | <b>授業外</b> で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点<br>・p.141の「③じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。<br>・予習として、p.38の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。<br>※本時の学習後であれば、p.44の「練習」の問題1は <b>授業外</b> で取り組ませることが可能。<br>※本時の学習後であれば、p.44の「練習」の問題2は <b>授業外</b> で取り組ませることが可能。 |
| (課題設定)  | 1 | 38    | ○(2位数)÷(1位数)の立式をして、具体物を使ってその計算の仕方を考える。   | ・色紙72枚を3人で分けるときの1人の枚数の求め方の考察                |  |
| ①(2けた)÷(1けた)の筆算   |   | 39    | ○わり算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。            | ・(2位数)÷(1位数)の筆算の学習の動機づけ<br>《商》              |  |
|   | 2 | 40～41 | ○具体物を使った計算の仕方をもとに、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考える。 | ・72÷3のような(2位数)÷(1位数)の筆算                     |  |
|   | 3 | 42    | ○余りのある(2位数)÷(1位数)を筆算で計算することができる。         | ・(2位数)÷(1位数)で余りのある筆算、答えの確かめ(わる数×商+余り=わられる数) |  |

|                 |    |       |  |                                       |   |
|-----------------|----|-------|--|---------------------------------------|---|
|                 | 4  | 43    | ○(2位数)÷(1位数)で、位ごとにわり切れる場合や一の位の商に0が立つ場合の筆算の仕方を理解することができる。 | ・(2位数)÷(1位数)で十の位がわり切れる場合や一の位の商に0が立つ筆算 | ※本時の学習後であれば、p.44の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。  |
| ●練習             | 5  | 44    | ○学習内容を確実に身につける。  | ・練習                                   | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。  |
| ②(3けた)÷(1けた)の筆算 | 6  | 45    | ○既習の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えることができる。               | ・(3位数)÷(1位数)で商が3桁になる筆算                | ・予習として、p.45の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1に取り組む。  |
|                 | 7  | 46~47 | ○(3位数)÷(1位数)で、商に空位がある場合の筆算の仕方を理解することができる。                | ・(3位数)÷(1位数)で商に0がたつ場合や商が2桁になる場合の筆算    |   |
| ●練習             | 8  | 48    | ○学習内容を確実に身につける。  | ・練習                                   | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。  |
| ③暗算             | 9  | 49    | ○簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。                           | ・(2位数)÷(1位数)で商が2桁になる暗算                |   |
| 学びのまとめ          | 10 | 50~51 | ○学習内容の理解を確認する。   | ・評価とふりかえり<br>・コラム「外国のわり算の筆算のしかた」      | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

|      |   |       |             |      |  |
|------|---|-------|-------------|------|--|
| * 復習 |   |       |             |      | 指導時数・時期  |
|      |   |       |             |      | 1時間 (授業内0時間)                                     |
|      |   |       |             |      | 2学期制：5月下旬  |
|      |   |       |             |      | 3学期制：5月下旬  |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目標          | 学習内容 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                       |
|      | 1 | 52~53 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習  | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 4 一億をこえる数  |   |     |   |   |  |
|--|---|-----|---|---|--|
| 目 標  |   |     |   |   | 指導時数・時期  |
| ○億や兆をこえる数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。   |   |     |   |   | 8時間 (授業内7時間)   |
| (知) ・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めている。<br>・×(3位数)の筆算ができる。<br>(思) ・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに、それらを日常生活に生かしている。<br>・×(2位数)の筆算の考えをもとに、×(3位数)の筆算の仕方を考えることができる。<br>(態) ・整数の表し方について、数学的に表現・処理したことをふり返り、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。 |   |     |   |   | 2学期制：5月下旬～6月上旬<br>3学期制：5月下旬～6月上旬   |
| 小単元  | 時 | ページ | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ   | — | 141 | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・3年「一万をこえる数」  | ・p.141の「④じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)   | 1 | 54  | ○人口を表す数字から、一億をこえる大きな数について調べていこうという単元の課題をつかむ。<br>○十億の位までの数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。 | ・世界の人口による一億をこえる数の学習の動機づけ<br>・一億をこえる数の仕組み、かき方<br>《一億・十億の位》 | ・予習として、p.54の絵や写真を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。   |
| ①億と兆   |   | 55  |   |   |  |
|  | 2 | 56  | ○数の仕組みについて理解を深め、一兆をこえる数について知る。  | ・一兆をこえる数の仕組み、かき方<br>《一兆、百億～千兆の位》                          |  |
|  | 3 | 57  | ○数の加法的な見方や相対的な見方から数を多面的にとらえる。<br>○一億をこえる数の数系列を理解する。                             | ・大きな数の数の構成(数の加法的・相対的な見方)                                  |  |



|          |   |       |  |  |   |
|----------|---|-------|--|--|---|
|          | 4 | 58～59 | ○整数を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることができる。   | ・大きな数を、10倍や100倍したり、10や100でわったりすることについての理解                                    |   |
|          | 5 | 60    | ○どんな整数も0から9までの数字を使って表すことができることを理解する。   | ・大きな数の仕組み(十進位取り記数法)  |   |
| ②大きな数の計算 | 6 | 61    | ○数の相対的な大きさの見方をもとに、億や兆の位までの数の加法・減法ができる。<br>○ $100 \times 100 = 1万$ 、 $1万 \times 1万 = 1億$ であることを使って、大きな数の乗法ができる。 | ・数の相対的な見方による加法・減法と乗法、 $100 \times 100 = 1万$ 、 $1万 \times 1万 = 1億$<br>《和、差、積》 |   |
|          | 7 | 62    | ○既習の $\times(2$ 位数)の筆算の仕方をもとにして、 $(3$ 位数) $\times(3$ 位数)を筆算で計算することができる。  | ・ $(3$ 桁) $\times(3$ 桁)の筆算   | ・予習として、p.62の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1に取り組む。  |
| 学びのまとめ   | 8 | 63～65 | ○学習内容の理解を確認する。   | ・評価とふりかえり、活用問題   | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

## 5 垂直・平行と四角形

| 目 標   |   |             |   | 指導時数・時期  |  |
|---|---|-------------|---|--|--|
| ○ 2直線の位置関係について、その交わり方に着目して垂直・平行の意味を理解し、四角形を平行な辺の組の数で分類してその特徴を調べることを通して、四角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。   |   |             |   | 14時間 (授業内13時間)<br>2学期制：6月上旬～6月下旬<br>3学期制：6月上旬～6月下旬           |  |
| (知) ・直線の平行や垂直の関係について理解している。<br>・平行四辺形、ひし形、台形について知っている。<br>(思) ・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直している。<br>(態) ・平行四辺形、ひし形、台形などについて、数学的に表現・処理したことをふり返り、多面的にとらえ検討し、生活や学習に活用しようとしていたりしている。 |   |             |   |  |  |
| 小単元   | 時 | ページ         | 目 標   | 学習内容   | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ  | — | 142         | ○既習事項の理解を深める。   | ・4年「角とその大きさ」   | ・p.142の「⑤じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)<br>①垂直と平行  | 1 | 66<br>67～68 | ○道路の交わり方から、直線の交わり方を調べていくという単元の課題をつかむ。<br>○2直線の交わり方を調べ、垂直の意味を理解する。 | ・実際の道路の交わりを観察することによる直線の関係性を調べることへの動機づけ<br>・垂直の定義<br>《垂直》     | ・予習として、p.66の写真を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。   |
|   | 2 | 69          | ○2直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解する。<br>○垂直や平行な直線を身のまわりからみつけることができる。          | ・平行の定義<br>《平行》<br>・身のまわりの垂直・平行                               | ※p.69の問題4の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。   |
|   | 3 | 70～71       | ○平行な2直線の幅を調べ、平行についての理解を深める。                                       | ・平行な2直線間の距離、長方形の辺の垂直・平行、紙を折ることによる垂直・平行づくり<br>・コラム「平行に見えるかな？」 |  |
| ②垂直や平行な直線のかき方   | 4 | 72～73       | ○1組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。   | ・垂直や平行な直線のかき方  |  |
|   | 5 | 74          | ○垂直や平行な直線のかき方を使って、長方形や正方形をかきことができる。                               | ・長方形や正方形の作図  |  |
|   | 6 | 75          | ○方眼紙上で2本の直線の垂直や平行な関係をみつけたり、かいたりする。                                | ・方眼紙上での平行・垂直な直線の弁別と作図  |  |
| ③四角形  | 7 | 76～77       | ○カードの点をつないでいろいろな四角形をつくり、辺の平行関係に着目して分類する。<br>○台形と平行四辺形について知る。      | ・台形・平行四辺形の定義と弁別<br>《台形、平行四辺形》<br>・身のまわりの台形・平行四辺形さがし          | ※p.77の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。   |
|   | 8 | 78          | ○平行四辺形の辺や角の大きさを調べ、その性質について理解する。                                   | ・平行四辺形の性質  |  |
|   | 9 | 79          | ○平行四辺形の作図の仕方を考えることができる。   | ・平行四辺形の作図  |  |

|        |    |       |   |   |   |
|--------|----|-------|---|---|---|
|        | 10 | 80    | ○ひし形について知り、辺や角の大きさを調べ、その性質やかき方について理解する。                       | ・ひし形の定義と性質、ひし形の作図、身のまわりのひし形<br>《ひし形》              | ※p.80の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取りませることが可能。   |
|        | 11 | 81    | ○対角線について知り、平行四辺形やひし形の対角線の交わり方を調べ、その性質を理解する。                   | ・対角線の定義<br>《対角線》                                  |   |
|        | 12 | 82    | ○ひし形を対角線で切ったときのできる三角形について考え、図形についての理解を深める。                    | ・四角形の三角形分割と構成による考察                                |   |
|        | 13 | 83    | ○平行四辺形は平面に敷き詰めることができることを知る。<br>○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つけることができる。 | ・平行四辺形の敷き詰め                                       |   |
| 学びのまとめ | 14 | 84～85 | ○学習内容の理解を確認する。  | ・評価とふりかえり<br>・コラム「どんな四角形でも敷き詰められるかな」「平行な直線からできる角」 | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 6 小 数  |   |       |  |  |  |
|--|---|-------|--|--|--|
| 目 標  |   |       |  |  | 指導時数・時期  |
| ○ 小数について、十進位取り記数法にもとづいて1/1000の位までの小数の表し方について理解し、大小を比べたり、たし算ひき算のしかたを考えたりすることを通してその理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。                       |   |       |  |  | 9時間 (授業内8時間)<br>2学期制：6月下旬～7月上旬<br>3学期制：6月下旬～7月中旬                                 |
| (知)・小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めている。<br>・小数の加法及び減法の計算ができる。  |   |       |  |  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| (思)・端数部分の大きさを小数で表すとき、0.1の単位をつくったときの考えをもとに、0.01の単位をつくることを考えている。<br>・ $\frac{1}{100}$ の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などと関連づけて考えている。       |   |       |  |  |  |
| (態)・小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法の仕組みで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。<br>・小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されているから同じように計算できるというように気づいている。 |   |       |  |  |  |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目 標  | 学習内容   |  |
| じゅんぴ   | — | 142   | ○既習事項の理解を確かめる。   | ・3年「小数」  |  |
| (課題設定)   | 1 | 86    | ○0.1Lを単位として表せないかさの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。                   | ・量の端数の表し方による小数の動機づけ  | ・p.142の「⑥じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| ①小数の表し方  |   | 87    | ○0.1Lを単位としたときの端数の表し方を通して、1/100の位までの小数の意味を理解する。               | ・1/100の位の小数の表し方  |  |
|  | 2 | 88    | ○長さや重さなどの量の大きさを、小数を使って表すことを通して、1/1000の位までの小数の意味を理解する。        | ・1/1000の位の小数の表し方   |  |
| ②小数のしくみ  | 3 | 89    | ○1, 0.1, 0.01, 0.001の相互の関係を調べ、1/1000の位までの小数の十進数としての仕組みをとらえる。 | ・1, 0.1, 0.01, 0.001の相互の関係, 0.1=1/10, 0.01=1/100, 0.001=1/1000 |  |
|  | 4 | 90～91 | ○小数の加法的な見方や相対的な見方から1/1000の位までの小数を多面的にとらえ、整数との統合をはかる。         | ・小数の加法的・相対的な見方、位の間の関係<br>《1/10の位, 1/100の位, 1/1000の位, 小数第〇位》    |  |
|  | 5 | 92    | ○小数を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることができる。               | ・小数を、10倍や100倍したり、10や100でわったりすることについての理解                        |  |
|  | 6 | 93    | ○整数のときと同じように、1/1000の位までの小数の大小関係を理解することができる。                  | ・小数の大小比較   |  |
| ③小数のたし算・ひき算  | 7 | 94    | ○小数の見方や仕組みをもとにして、小数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。                   | ・1/100の位の小数の加法や減法の筆算   |  |

|        |   |       |                                   |   |   |
|--------|---|-------|-----------------------------------|---|---|
|        | 8 | 95    | ○いろいろな場合の小数の加法や減法を、筆算で計算することができる。 | ・1/100の位の小数の加減で、桁数の違う場合や0の処理が必要な場合などの筆算 |   |
| 学びのまとめ | 9 | 96~97 | ○学習内容の理解を確認する。                    | ・評価とふりかえり、活用問題                          | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 活 わくわく算数ひろば |   |         |   |                               | 指導時数・時期  |
|-------------|---|---------|---|-------------------------------|--|
|             |   |         |   |                               | 2時間(授業内1時間)<br>2学期制:7月中旬<br>3学期制:7月中旬          |
| 小単元         | 時 | ページ     | 目 標   | 学習内容                          | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                     |
| ●算数ラボ       | 1 | 98~99   | ○ルーローの三角形づくりを通して、身のまわりのものを数学的にとらえてみることのおもしろさを知る。  | ・円や平行な直線の作図を活用してルーローの三角形を作る活動 | ・予習として、ルーローの三角形について確認して、学習内容の見通しをもつ。(授業内0.5時間) |
| ●算数の自由研究    | 2 | 100~101 | ○「ふしぎな輪」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。 | ・輪つなぎとその展開(立体物を展開することの素養)     | ・いろいろな輪をつくる活動は、授業外で取り組む。(授業内0.5時間)             |

| * 復習 |   |         |             |      | 指導時数・時期  |
|------|---|---------|-------------|------|--|
|      |   |         |             |      | 1時間(授業内0時間)<br>2学期制:7月中旬<br>3学期制:7月中旬            |
| 小単元  | 時 | ページ     | 目 標         | 学習内容 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                       |
|      | 1 | 102~103 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習  | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 7 2けたでわるわり算の筆算   |   |         |   |   |  |
|--|---|---------|---|---|--|
| 目 標  |   |         |   |   | 指導時数・時期  |
| ○ 2けたでわるわり算の筆算について、1けたでわるわり算をもとにその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の筆算の仕方やわり算の性質についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |   |         |   |   | 11時間(授業内9時間)<br>2学期制:7月中旬~9月上旬<br>3学期制:9月上旬~9月下旬                                 |
| (知)・2位数でわる計算の仕方や除法に関して成り立つ性質がわかり、(何十)でわる計算や2位数でわる筆算ができる。   |   |         |   |   |  |
| (思)・商が1位数になる除法をもとに、商が2位数になる除法の筆算の仕方を考える。<br>・除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かしている。               |   |         |   |   |  |
| (態)・商が2位数になる除法の筆算の仕方を進んで考え出そうとする。<br>・除法に関して成り立つ性質を活用して、工夫して計算しようとしている。  |   |         |   |   |  |
| 小単元  | 時 | ページ     | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ   | — | 142     | ○既習事項の理解を確かめる。                                  | ・4年「1けたでわるわり算の筆算」   | ・p.142の「⑦じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)   | 1 | 104     | ○(何十)÷(何十)の立式をして、2桁でわるわり算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 | ・既習のふりかえりと除数が(2位数)のわり算の学習の動機づけ                            | ・予習として、p.104の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。  |
| ①何十でわるわり算  |   | 105     | ○(何十)でわって商が1桁で余りのない計算ができる。                      | ・(何十)でわって商が1桁になるわり算の計算の仕方                                 |  |
|  | 2 | 106~107 | ○(何十)でわって商が1桁で余りのある計算ができる。                      | ・(何十)でわって、商が1桁であまりのあるわり算の計算の仕方<br>・答えの確かめ(わる数×商+余り=わられる数) |  |
| ②商が1けたになる筆算  | 3 | 108~109 | ○(2位数)÷(2位数)の立式をして、商の見当づけによる筆算の仕方を理解する。         | ・(2位数)÷(2位数)による筆算形式の導入                                    | ※本時の学習後であれば、p.114の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。                                    |

|                 |    |     |   |                                  |   |
|-----------------|----|-----|---|----------------------------------|---|
|                 | 4  | 110 | ○(3位数)÷(2位数)で、商が1桁になる筆算の仕方を考える。                           | ・(3位数)÷(2位数)で商が1桁になる筆算(仮商の修正なし)  |   |
|                 | 5  | 111 | ○仮商の修正のある筆算の仕方を理解する。                                      | ・(3位数)÷(2位数)で商が1桁になる筆算(仮商の修正あり)  | ※本時の学習後であれば、p.114の「練習」の問題3・4は授業外で取り組ませることが可能。   |
| ③商が2けた、3けたになる筆算 | 6  | 112 | ○商が2桁になる(3位数)÷(2位数)の筆算を計算することができる。                        | ・(3位数)÷(2位数)で商が2桁になる筆算           |   |
|                 | 7  | 113 | ○(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方をもとに、(4位数)÷(2,3位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。 | ・(4位数)÷(2位数)、(4位数)÷(3位数)の筆算      | ※本時の学習後であれば、p.114の「練習」の問題5・6・7は授業外で取り組ませることが可能。   |
| ●練習             | 8  | 114 | ○学習内容を確実に身につける。   | ・練習                              | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。  |
| ④わり算のせいしつ       | 9  | 115 | ○商が等しいわり算の計算を比べ、わり算に関して成り立つ性質を理解する。                       | ・被除数と除数の両方に同じ数を乗除しても商は変わらないという性質 |   |
|                 | 10 | 116 | ○わり算の性質を活用して、工夫して計算する。                                    | ・わり算の性質を使った計算の工夫                 |   |
| 学びのまとめ          | 11 | 117 | ○学習内容の理解を確認する。  | ・評価とふりかえり                        | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

## 8 割 合

|               |   | 目 標   |  | 指導時数・時期  |  |
|---------------|---|---|--|--|--|
|               |   | ○ 2つの数量の関係について、整数の場合で何倍になるかという割合を用いて比較したり割合から数量を求めたりすることを通して、割合の意味とそれを用いる場面について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。  |  | 4時間(授業内4時間)<br>2学期制:9月中旬<br>3学期制:9月下旬                            |  |
|               |   | (知)・簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知っている。<br>(思)・日常の事象における数量の關係に着目し、2つの数量の関係を割合を利用して比べて考察することができる。<br>(態)・割合を利用して、2つの数量の関係を比較しようとする。 |  |  |  |
| 小単元           | 時 | ページ   | 目 標  | 学習内容   | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ          | — | 143   | ○既習事項の理解を確かめる。   | ・3年「何倍でしょう」  | ・p.143の「⑧じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.164の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)<br>①割合 | 1 | 118<br>119  | ○動物の成長度合いを考えることを通して、単元の課題をつかむ。<br>○ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知る。 | ・2つの数量関係を比べることによる割合の学習の動機づけ<br>・2つの数量の割合を比較すること(割合の第1用法)<br>《割合》 | ・予習として、p.118の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。  |
|               | 2 | 120~121   | ○何倍かの関係にある2量のうちの一方がわからない場面で、その量を求めることができる。                                       | ・割合の第2用法・第3用法  |  |
| ②何倍になるかを考えて   | 3 | 122   | ○□×a×b=cの場面で、順に考えて解く方法と、何倍になるかに着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。                      | ・□×a×b=cの場面で□を求めるのに、順に考えたりまとめて考えたりして解く問題                         |  |
|               | 4 | 123   | ○□×a×b=cの場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解くことができる。                                      | ・□×a×b=cの場面で□を求めるのに、まとめて考えて解く問題                                  |  |



## 9 式と計算の順じよ

| 目 標  |   |            |  |  | 指導時数・時期   |
|--|---|------------|--|--|---|
| <p>○ ( )のある式や四則の混じった式について、計算の順序を理解し、いろいろな式の意味や計算のしかたを考えたり説明したりすることを通して、式と計算のきまりについての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>  |   |            |  |  | <p>8時間 (授業内 7時間)<br/>2学期制：9月下旬～10月上旬<br/>3学期制：10月上旬～10月中旬</p>   |
| <p>(知) ・四則の混合した式や ( ) を用いた式について理解し、正しく計算することができる。<br/>・四則に関して成り立つ性質についての理解を深めている。<br/>(思) ・交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。<br/>・式をよみ、具体的な場面や思考の筋道を考えている。<br/>(態) ・式の扱いに関心をもち、( ) を使って1つの式に表したり、具体的に即して式をよみとろうとしたりする。</p> |   |            |  |  |   |
| 小単元  | 時 | ページ        | 目 標  | 学習内容   | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点  |
| じゅんぴ   | — | 143        | ○既習事項の理解を深める。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年「しきと計算」</li> <li>・2年「九九のきまり」</li> <li>・3年「式と計算」</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.143の「㊟じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツや p.164の解答を参照して答え合わせも行う。</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul>                               |
| (課題設定)<br>①式と計算の順じよ  | 1 | 124<br>125 | ○生活場面を式に表すことで、単元の課題をつかむ。<br>○ことばの式をもとに、( ) を使って1つの式に表したり、その計算の順序を考えたりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>120+90 \times 3</math>のような場面による計算の順序についての動機づけ</li> <li>・式の表し方と計算の順序</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、p.124の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。</li> </ul>   |
|  | 2 | 126        | ○四則混合の計算を1つの式に表したとき、乗除を先に計算することや乗除の( )は省いてよいことを理解する。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四則混合式での乗除先行についての理解</li> </ul>  |   |
|  | 3 | 127        | ○四則混合の式から計算の順序をとらえ、正しく計算することができる。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四則混合式の計算の順序ときまりのまとめ</li> </ul>   |   |
| ②計算のきまり  | 4 | 128～129    | ○まとめて考える考えと別々に考える考えを統合して、分配法則のきまりに気づくことができる。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分配法則を中心とした整数の計算のきまりのまとめ</li> </ul>   |   |
|  | 5 | 130～131    | ○交換、結合、分配法則などの計算のきまりを活用し、工夫して計算することができる。                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交換法則、結合法則、分配法則を使った計算の工夫</li> </ul>   |   |
| ③式のよみ方   | 6 | 132        | ○いろいろな式の表す意味を図と結びつけて考え、そう考えた理由を図を使って説明することができる。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・式のよみ</li> </ul>  |   |
| ④計算の間の関係   | 7 | 133        | ○乗法と除法、加法と減法の相互関係をとらえて、計算に利用することができる。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・加減、乗除の相互関係 (□を使った式)</li> </ul>   |   |
| 学びのまとめ   | 8 | 134～135    | ○学習内容の理解を確認する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価とふりかえり、活用問題</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツや p.163の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0時間)</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul> |

## ● そろばん

| 目 標  |   |         |   |   | 指導時数・時期  |
|--|---|---------|---|---|--|
| <p>○ そろばんについて、そろばんを用いた小数や大きな数の表し方を理解し、その加減の計算を通して、そろばんの構造やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>   |   |         |   |   | <p>1時間 (授業内 1時間)<br/>2学期制：10月中旬<br/>3学期制：10月中旬</p> |
| <p>(知) ・そろばんによる小数や大きな数の表し方、加法及び減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて小数や大きな数の簡単な加法及び減法の計算ができる。<br/>(思) ・整数の加減をもとに、小数の加減の計算の仕方を考えることができる。<br/>(態) ・そろばんについて関心をもち、進んで加減の計算に取り組もうとする。</p> |   |         |   |   |  |
| 小単元  | 時 | ページ     | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                         |
| ○そろばん  | 1 | 136～138 | ○第3学年で学習した整数の加減のそろばんの計算処理をもとに、小数の加減や大きな数の計算をする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数や大きい数の入れ方とはらい方、いろいろな加減計算</li> <li>・コラム「そろばんとおつり」「数のたんじょうとそろばん」</li> </ul> |  |

★ 学びのサポート

| ページ     | 学習内容     | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
|---------|----------|--|
| 140～143 | ・じゅんび    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元前の「じゅんび」に取り組み、QR コンテンツや p.164 の解答を参照して答え合わせも行う。</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul> |
| 144～157 | ・もっと練習   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の補充として「もっと練習」に取り組み、p.164～165 の解答を参照して答え合わせも行う。</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul>  |
| 158～171 | ・算数しりょう集 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※授業内・外問わず、必要に応じて適宜確認させる。</li> </ul>   |

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

10 面積

| 目 標  |  | 指導時数・時期  |
|--|--|--|
| ○ 長方形や正方形の面積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、面積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |  | 10 時間 (授業内 9 時間)<br>2 学期制：10 月中旬～10 月下旬<br>3 学期制：10 月中旬～10 月下旬 |
| (知)  | ・面積の単位 (平方センチメートル (cm <sup>2</sup> ), 平方メートル (m <sup>2</sup> ) 平方キロメートル (km <sup>2</sup> )) について知っている。<br>・正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解している。 |  |
| (思)  | ・面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えると同時に、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。   |  |
| (態)  | ・図形の面積を表すことに関心をもち、長方形や正方形の面積公式を利用して、身のまわりにあるものの面積を求めようとする。   |  |

| 小単元         | 時  | ページ   | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
|-------------|----|-------|---|---|--|
| じゅんぴ        | —  | 120   | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・1 年「大きさくらべ」<br>・2, 3 年「長さ」   | ・p.120 の「@じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.138 の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。                               |
| (課題設定)      | 1  | 2     | ○花壇の広さ比べを通して、面積の表し方や求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。   | ・花壇の広さ比べによる面積の求め方や表し方の動機づけ<br>・面積の直接比較、任意単位の測定《面積》  | ・予習として、p.2 の絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。  |
| ①面積         |    | 3     |   |   |  |
|             | 2  | 4～5   |   |   |  |
|             | 3  | 6～7   | ○長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。  | ・長方形と正方形の面積の求め方と面積公式  |  |
| ②面積の求め方のくふう | 4  | 8～9   | ○L 字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積を長方形の面積公式を使って求め、説明することができる。  | ・L 字型の図形の面積のいろいろな求め方  |  |
| ③大きな面積      | 5  | 10    | ○面積の単位 m <sup>2</sup> について知り、m <sup>2</sup> を使って面積を表すことができる。  | ・1m <sup>2</sup> の意味と面積の表し方《m <sup>2</sup> , 平方メートル》  |  |
|             | 6  | 11    | ○長さの単位が異なる場合の長方形の面積を求めることができる。<br>○m <sup>2</sup> と cm <sup>2</sup> の単位間の関係を理解する。                                 | ・長さの単位を揃えて面積を求めること<br>・m <sup>2</sup> と cm <sup>2</sup> の関係、1m <sup>2</sup> =10000cm <sup>2</sup>   |  |
|             | 7  | 12    | ○1m <sup>2</sup> の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその面積を求めたりすることができる。   | ・1m <sup>2</sup> づくり、身のまわりのおよその面積   |  |
|             | 8  | 13    | ○面積の単位 km <sup>2</sup> について知り、km <sup>2</sup> を使って面積を表すことができる。<br>○km <sup>2</sup> と m <sup>2</sup> の単位間の関係を理解する。 | ・1km <sup>2</sup> の意味と面積の表し方、km <sup>2</sup> と m <sup>2</sup> の関係、1km <sup>2</sup> =1000000m <sup>2</sup><br>《km <sup>2</sup> , 平方キロメートル》 |  |
| ④面積の単位の関係   | 9  | 14～15 | ○面積の単位 a, ha について知り、a, ha を使って面積を表すことができる。<br>○a, ha と m <sup>2</sup> の単位間の関係を理解する。                               | ・アールとヘクタール、1a=100 m <sup>2</sup> , 1ha=10000 m <sup>2</sup><br>・長さの単位の関係をもとにした面積の単位の関係《a, アール, ha, ヘクタール》                                 |  |
| 学びのまとめ      | 10 | 16～17 | ○学習内容の理解を確認する。  | ・評価とふりかえり、活用問題  | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.137 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| * 復習 |   |       |             |      | 指導時数・時期  |
|------|---|-------|-------------|------|--|
|      |   |       |             |      | 1 時間 (授業内 0 時間)<br>2 学期制：11 月上旬<br>3 学期制：11 月上旬    |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目標          | 学習内容 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                         |
|      | 1 | 18～19 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習  | ・授業外で取り組む。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 11 がい数とその計算   |   |             |   |   |  |
|---|---|-------------|---|---|--|
| 目 標   |   |             |   |   | 指導時数・時期  |
| ○身のまわりの数量の表し方について、目的に応じて概数で表されることがあることを理解し、その表し方を考えたり、概数で計算する仕方を説明したりすることを通して、概数の意味やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。  |   |             |   |   | 8 時間 (授業内 7 時間)<br>2 学期制：11 月上旬～11 月中旬<br>3 学期制：11 月上旬～11 月中旬  |
| (知) ・概数が用いられる場合について知っている。<br>・四捨五入について知っている。<br>・目的に応じて四則計算の結果の見積りを行うことができる。<br>(思) ・数のしくみにもとづいて、概数の表し方を考えることができる。<br>・また、目的に応じた見積りの仕方を工夫することができる。<br>(態) ・日常生活で使われている概数を進んで調べ、目的に応じて概数で表したり、概算したりしようとする。 |   |             |   |   |  |
| 小単元   | 時 | ページ         | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ  | — | 120         | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・3 年「一万をこえる数」   | ・p.120 の「①じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.138 の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。                               |
| (課題設定)<br>①がい数の表し方  | 1 | 20<br>21～22 | ○およその数で表された場面から概数の意味を知り、単元の課題をつかむ。<br>○概数の表し方について調べ、あるきまった位を四捨五入にする方法を理解する。 | ・入場者数による概数の学習の動機づけ<br>《がい数》<br>・四捨五入の意味、四捨五入による概数の表し方<br>《四捨五入》 | ・予習として、p.20 の写真や絵を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。  |
|   | 2 | 23          | ○桁数の違う数を概数にするときには、上から 1, 2 桁の概数にすることを理解する。                                  | ・「ある位まで」や「上から○桁」の概数の表し方   |  |
|   | 3 | 24          | ○四捨五入の仕方をもとに概数の表す範囲を考え、「以上」「未満」「以下」を使って数の範囲を表すことができる。                       | ・四捨五入される前のもとの数の範囲<br>《以上, 未満, 以下》                               |  |
|   | 4 | 25          | ○1 万をこえる数量を棒グラフに表すのに、概数を用いることができる。<br>○身のまわりから、使われている概数をみつける。               | ・概数を活用して棒グラフに表すこと、身のまわりの概数                                      | ※p.25 の問題 2 の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。  |
| ②がい数の計算   | 5 | 26～27       | ○和や差を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。   | ・和や差を概数で見積もる場面での概算の仕方<br>《がい算》                                  |  |
|   | 6 | 28          | ○積を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。   | ・積を概数で見積もる場面での概算の仕方   |  |
|   | 7 | 29          | ○積の概算の仕方をもとに商を求める概算の仕方を考え、見積もることができる。                                       | ・商を概数で見積もる場面での概算の仕方   |  |
| 学びのまとめ  | 8 | 30～31       | ○学習内容の理解を確認する。  | ・評価とふりかえり、活用問題  | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.137 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 思 図を使って考えよう  |   |     |  |   |   |
|--|---|-----|--|---|---|
| 目 標  |   |     |  |   | 指導時数・時期                                   |
| ○ 文章題において、問題場面を図に表して解法を考えることを通して、逆思考で順にもどす考え方をを使って3要素2段階の問題を解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。                           |   |     |  |   | 2時間 (授業内 2時間)<br>2学期制：11月中旬<br>3学期制：11月中旬 |
| (知)・順にもどして考えて解く方法を理解し、3要素2段階の問題を図に整理し、問題の解決にいかすことができる。<br>(思)・3要素2段階の問題を図に整理し、順にもどして解決することができる。<br>(態)・順にもどして考えることに関心をもち、進んで問題に取り組もうとする。 |   |     |  |   |   |
| 小単元  | 時 | ページ | 目 標                                    | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                |
|  | 1 | 32  | ○3要素2段階(×, ±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。 | ・順にもどして解く3要素2段階の問題 ( $\square \times a \pm b = c$ ) |   |
|  | 2 | 33  | ○3要素2段階(÷, ±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。 | ・順にもどして解く3要素2段階の問題 ( $\square \div a \pm b = c$ )   |   |

| 12 小数のかけ算やわり算  |   |       |   |   |  |
|--|---|-------|---|---|--|
| 目 標  |   |       |   |   | 指導時数・時期  |
| ○ 小数と整数のかけ算やわり算について、整数の計算をもとにしてその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、(小数)×(整数)、(小数)÷(整数)の計算や筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。   |   |       |   |   | 16時間 (授業内 13時間)<br>2学期制：11月中旬～12月中旬<br>3学期制：11月中旬～12月中旬                          |
| (知)・(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の意味やその仕方を理解し、(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算ができる。<br>(思)・(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の意味やその仕方について、整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりなどをもとにしたりして考えることができる。<br>(態)・小数の仕組みや計算のきまりを用いて、(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えようとする。 |   |       |   |   |  |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ   | — | 121   | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・3年、4年上「小数」<br>・4年上「一億をこえる数」<br>・4年上「式と計算の順じょ」          | ・p.121の「@じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.138の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)   | 1 | 34    | ○(小数)×(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。  | ・既習のふりかえりと(小数)×(整数)の学習の動機づけ                             | ・予習として、p.34の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。   |
| ①小数のかけ算  |   | 35    | ○乗法九九の範囲の(小数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。                                       | ・乗法九九の範囲の(小数)×(整数)の計算の仕方                                |  |
|  | 2 | 36    | ○(小数)×(1位数)の計算の仕方を考え、計算することができる。  | ・(小数)×(1位数)の計算  | ※本時の学習後であれば、p.39の「練習」の問題1は授業外で取り組ませることが可能。                                       |
|  | 3 | 37    | ○整数の筆算の仕方をもとに(小数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。                           | ・(小数)×(1位数)の筆算(末尾0の処理を含む)                               |  |
|  | 4 | 38    | ○(小数)×(2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。                                       | ・(小数)×(2位数)の筆算  | ※本時の学習後であれば、p.39の「練習」の問題2・3・4・5は授業外で取り組ませることが可能。                                 |
| ●練習  | 5 | 39    | ○学習内容を確実に身につける。   | ・練習   | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。                                 |
| ②小数のわり算  | 6 | 40～41 | ○(小数)÷(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。<br>○乗法九九の範囲の(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えることができる。         | ・既習のふりかえりと(小数)÷(整数)の学習の動機づけ<br>・乗法九九の範囲の(小数)÷(整数)の計算の仕方 | ・予習として、p.40の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。   |
|  | 7 | 42    | ○被除数を整数にするだけではわからない $2 \div 4$ や $0.2 \div 5$ のような場合の計算の仕方を考え、計算することができる。 | ・ $2 \div 4$ や $0.2 \div 5$ のような商に0を立ててわり進む場合の計算の仕方     | ※本時の学習後であれば、p.49の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。                                     |
|  | 8 | 43    | ○整数の筆算の仕方をもとに(小数)÷(1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。                           | ・(小数)÷(1位数)の筆算  |  |
|  | 9 | 44    | ○(小数)÷(1位数)で、商が純小数になる場合や商に空位の0がある場合の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。               | ・整数部分に商が立たない(小数)÷(1位数)の筆算                               |  |



|        |    |       |  |                                      |   |
|--------|----|-------|--|--------------------------------------|---|
|        | 10 | 45    | ○(小数)÷(2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。          | ・(1/10の位の小数)÷(2位数)の筆算(商が純小数になるものも含む) |   |
|        | 11 | 46    | ○(小数)÷(整数)で、商を一の位まで求めて、余りがある場合の計算を考える。       | ・(小数)÷(整数)で、あまりを求める                  | ※本時の学習後であれば、p.49の「練習」の問題3・4は授業外で取り組ませることが可能。  |
|        | 12 | 47    | ○(整数、小数)÷(1, 2位数)でわり進む場合の筆算の仕方を理解する。         | ・わり進む場合の筆算                           |   |
|        | 13 | 48    | ○(整数、小数)÷(1, 2位数)で、商を適当な位までの概数で表す筆算の仕方を理解する。 | ・わり進む場合の筆算で、わり切れずに商を概数で表すこと          | ※本時の学習後であれば、p.49の「練習」の問題5・6・7は授業外で取り組ませることが可能。  |
| ●練習    | 14 | 49    | ○学習内容を確実に身につける。                              | ・練習                                  | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。  |
| ③小数倍   | 15 | 50～51 | ○何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。                  | ・小数倍の意味(割合の第1用法)                     |   |
| 学びのまとめ | 16 | 52～53 | ○学習内容の理解を確認する。                               | ・評価とふりかえり、活用問題                       | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.137の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

|              |   |       |  |                |  |
|--------------|---|-------|--|----------------|--|
| 活 わくわく算数ひろば  |   |       |  |                | 指導時数・時期                                      |
|              |   |       |  |                | 2時間(授業内2時間)                                  |
|              |   |       |  |                | 2学期制: 12月中旬                                  |
|              |   |       |  |                | 3学期制: 12月中旬                                  |
| 小単元          | 時 | ページ   | 目 標                                      | 学習内容           | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                   |
| ●見積もりを使って    | 1 | 54～55 | ○100や1000などのまとまりをつくって結果を見積もり、判断することができる。 | ・グルーピングによる見積もり |  |
| ●どんな計算になるのかな | 2 | 56～57 | ○根拠にもとづいて、整数の四則計算の演算決定をすることができる。         | ・整数の四則計算の演算決定  | ・予習として、p.56の内容を確認して、これまでの学習をもとにp.57の問題に取り組む。 |

|      |   |       |             |      |  |
|------|---|-------|-------------|------|--|
| * 復習 |   |       |             |      | 指導時数・時期  |
|      |   |       |             |      | 1時間(授業内0時間)                                      |
|      |   |       |             |      | 2学期制: 12月中旬                                      |
|      |   |       |             |      | 3学期制: 12月中旬                                      |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目 標         | 学習内容 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                       |
|      | 1 | 58～59 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習  | ・授業外で取り組む。(授業内0時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

|  |   |                |   |                                      |  |
|--|---|----------------|---|--------------------------------------|--|
| 13 調べ方と整理のしかた  |   |                |   |                                      |  |
| 目 標  |   |                |   |                                      | 指導時数・時期  |
| ○身のまわりの事象について、二次元の表を用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |   |                |   |                                      | 4時間(授業内3時間)  |
| (知) ・データを2つの観点から分類整理する方法を知っている。  |   |                |   |                                      | 2学期制: 1月中旬   |
| (思) ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、問題解決のために考察している。  |   |                |   |                                      | 3学期制: 1月中旬   |
| (態) ・目的に応じてデータを集め、それを分類整理して、特徴を調べようとしている。  |   |                |   |                                      |  |
| 小単元  | 時 | ページ            | 目 標   | 学習内容                                 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんび   | — | 122            | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・3年「表とグラフ」                           | ・p.122の「③じゅんび」に取り組み、QRコンテンツやp.138の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)   | 1 | 60～61<br>62～63 | ○けが調べから、2つの事柄について整理した表を用いて解決しようという単元の課題をつかむ。<br>○「1週間のけが調べ」の資料をもとに整理した二次元の表のよみ方を理解する。 | ・けが調べによる、二次元の表の学習の動機づけ<br>・二次元の表のよみ方 | ・予習として、p.60～61の絵や表を確認して、本単元の学習内容の見直しをもつ。   |

|        |   |       |   |                                       |  |
|--------|---|-------|---|---------------------------------------|--|
|        | 2 | 64～65 | ○二次元の表のかき方を理解し、落ちや重なりがないように二次元の表をかく。    | ・二次元の表のつくり方                           |  |
|        | 3 | 66～67 | ○二次元の表を考察し、そこから得られたことを、自分たちの生活にいかそうとする。 | ・ある事象に関する複数の二次元の表をよみとること、身のまわりの事象への活用 |  |
| 学びのまとめ | 4 | 68～69 | ○学習内容の理解を確認する。                          | ・評価とふりかえり、活用問題                        | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.137 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |

| 思 表を使って考えよう   |   |       |                                      |   |                            |
|---|---|-------|--------------------------------------|---|----------------------------|
| 目 標   |   |       |                                      | 指導時数・時期                                       |                            |
| ○ 文章題において、情報を二次元の表に分類・整理して解法を考えることを通して、2つの観点の組み合わせを考えて問題を解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |   |       |                                      | 1 時間 (授業内 1 時間)<br>2 学期制：1 月中旬<br>3 学期制：1 月中旬 |                            |
| (知) ・2つの観点からの情報を二次元の表で整理することを知っている。<br>(思) ・2つの観点からの情報を二次元の表に整理できる。<br>(態) ・いろいろな情報を、二次元の表などに整理して、考えようとする。  |   |       |                                      |   |                            |
| 小単元   | 時 | ページ   | 目 標                                  | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点 |
| (課題設定)  | 1 | 70～71 | ○問題に示された条件を、表を用いて2つの観点から分類・整理して解決する。 | ・二次元の表を使って分類整理して考える問題                         |                            |

| 14 分 数   |   |       |   |   |   |
|--|---|-------|---|---|---|
| 目 標  |   |       |   | 指導時数・時期   |   |
| ○ 分数について、1より大きい分数の表し方や等しい分数について理解し、同分母分数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。   |   |       |   | 7 時間 (授業内 6 時間)<br>2 学期制：1 月下旬～2 月上旬<br>3 学期制：1 月下旬～2 月上旬 |   |
| (知) ・1より大きい分数を仮分数でも帯分数でも表すことができる。<br>・簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知っている。<br>・同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。<br>(思) ・分数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりしている。<br>(態) ・1より小さい分数の意味をもとにして、1より大きい分数の意味について考えようとしている。 |   |       |   |   |   |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目 標   | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点  |
| じゅんぴ   | — | 122   | ○既習事項の理解を確かめる。  | ・3年「分数」   | ・p.122の「㊤じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.138 の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| (課題設定)   | 1 | 72    | ○単位とする大きさの分数で測定することを通して、1より大きい分数について調べていくという単元の課題をつかむ。        | ・長さの分数表現による分数の学習の動機づけ<br>・分数の分類、真分数と仮分数の意味<br>《真分数、仮分数》   | ・予習として、p.72の図を確認して、本単元の学習内容の見直しをもつ。   |
| ①1より大きい分数の表し方  |   | 73    | ○単位分数のいくつ分になるか調べ、真分数や仮分数について理解する。                             |   |   |
|  | 2 | 74～75 | ○帯分数について知り、分子を分母でわった商とあまりに着目して、仮分数を整数や帯分数に直す仕方を考える。           | ・帯分数の意味、仮分数を帯分数になおすこと<br>《帯分数》                            |   |
|  | 3 | 76～77 | ○帯分数を仮分数に直す仕方を考え、帯分数を仮分数に直したり、分母の等しい帯分数や仮分数の大小比較をしたりすることができる。 | ・帯分数を仮分数になおすこと、仮分数や帯分数の大小比較                               |   |
| ②分数のたし算・ひき算  | 4 | 78    | ○同分母分数の加法(和が1より大)や減法(被減数が1より大)の計算をすることができる。                   | ・同分母分数の加法・減法の立式と計算の仕方                                     |   |
|  | 5 | 79    | ○帯分数を含む同分母分数の加法や減法の仕方を考え、計算することができる。                          | ・帯分数の入った同分母分数の加法・減法                                       |   |
| ③等しい分数   | 6 | 80～81 | ○分母や分子がちがう分数で、大きさの等しいものがあることを、数直線を使って理解する。                    | ・等しい分数の理解   |   |

|        |   |       |                |                |  |
|--------|---|-------|----------------|----------------|--|
| 学びのまとめ | 7 | 82～83 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は<br>授業外で取り組む。「たしかめよう」については，QR コンテンツや p.137 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。 |
|--------|---|-------|----------------|----------------|--|

| * 復習 |   |       |             |      | 指導時数・時期  |
|------|---|-------|-------------|------|--|
|      |   |       |             |      | 1 時間 (授業内 0 時間)<br>2 学期制：2 月上旬<br>3 学期制：2 月上旬      |
| 小単元  | 時 | ページ   | 目標          | 学習内容 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                         |
|      | 1 | 84～85 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習  | ・授業外で取り組む。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。 |

| 15 変わり方  |   |          |  |   |  |
|--|---|----------|--|---|--|
| 目 標  |   |          |  |   | 指導時数・時期  |
| ○ 伴って変わる 2 つの数量について，その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して，表やグラフを用いた関数的な見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |   |          |  |   | 6 時間 (授業内 5 時間)<br>2 学期制：2 月上旬～2 月中旬<br>3 学期制：2 月上旬～2 月中旬  |
| (知) ・伴って変わる 2 つの数量の関係を明確にするために，資料を表に表したりグラフを用いて表したりできることを理解している。                                   |   |          |  |   |  |
| (思) ・伴って変わる 2 つの数量の関係を表に整理して，変化や対応の特徴を考察している。  |   |          |  |   |  |
| (態) ・表やグラフ，式に表された変化や対応の特徴をふり返り，それぞれの表し方のよさに気づき，さらに考察を進めようとしている。                                    |   |          |  |   |  |
| 小単元  | 時 | ページ      | 目 標  | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんび   | — | 123      | ○既習事項の理解を確かめる。   | ・3 年「□を使った式」  | ・p.123 の「㊦じゅんび」に取り組み，QR コンテンツや p.138 の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。                                   |
| (課題設定)   | 1 | 86<br>87 | ○長方形づくりを通して，伴って変わる 2 つの数量の関係について調べていくという単元の課題をつかむ。<br>○伴って変わる 2 つの数量の関係を調べる表のかき方やよみ方を理解する。 | ・周りの長さを固定した長方形づくりによる変わり方の学習の動機づけ<br>・伴って変わる 2 つの数量 (長方形の縦と横) の関係を表に整理すること | ・予習として，p.86 の写真や図を確認して，本単元の学習内容の見通しをもつ。  |
|  | 2 | 88       | ○伴って変わる 2 つの数量の関係を，○や△を使った式に表すことができる。  | ・和や差が一定の 2 つの数量の関係を表に整理し，○や△を使って数量の関係を式に表すこと                              |  |
|  | 3 | 89       | ○伴って変わる 2 つの数量の関係を表にかいて調べたり，○や△を使った式に表して調べたりする。  | ・商が一定の 2 つの数量の関係を表に整理し，○や△を使って数量の関係を式に表すこと                                |  |
|  | 4 | 90       | ○変わり方のきまりを表にかいてみつけ，きまりを使って問題を解決する。   | ・2 つの数量の関係を表に整理し，変わり方のきまりを見つけて解く問題  |  |
|  | 5 | 91       | ○水そうの水の量と全体の重さの関係を，折れ線グラフに表したりよんだりする。  | ・2 つの数量の関係を折れ線グラフに表して考察すること   |  |
| 学びのまとめ   | 6 | 92～93    | ○学習内容の理解を確認する。   | ・評価とふりかえり，活用問題  | ・「たしかめよう」「ふりかえろう」は<br>授業外で取り組む。「たしかめよう」については，QR コンテンツや p.137 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)<br>※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。 |

## 16 直方体と立方体

| 目 標   |    |         |   | 指導時数・時期   |  |
|---|----|---------|---|---|--|
| <p>○ 直方体と立方体について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>   |    |         |   | 11 時間 (授業内 9 時間)<br>2 学期制：2 月中旬～3 月上旬<br>3 学期制：2 月中旬～3 月上旬  |  |
| <p>(知) ・直方体や立方体について、見取図や展開図をかいたり、直線や平面の平行・垂直の関係を調べたりして理解する。<br/>                     ・平面上や空間の中でのものの位置の表し方について理解している。</p> <p>(思) ・直方体、立方体を構成する要素(面、辺、頂点)及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し、図形の性質をとらえることができる。</p> <p>(態) ・直方体や立方体に興味をもち、進んでそれらの性質を調べようとしたり、それらの形を身のまわりから探そうとしたりする。<br/>                     ・ものの位置を数を利用して、的確に表そうとする。</p> |    |         |   |   |  |
| 小単元   | 時  | ページ     | 目 標                                       | 学習内容  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| じゅんぴ  | —  | 123     | ○既習事項の理解を確かめる。                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年「はこの形」</li> <li>・4年上「垂直・平行と四角形」</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.123の「㊦じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.138 の解答を参照して答え合わせも行う。</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul>                                |
| (課題設定)  | 1  | 94      | ○面から箱をつくることを通して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱の面構成による立体図形の学習の動機づけ</li> <li>・直方体や立方体の面構成、直方体や立方体の定義</li> </ul> 《直方体、立方体、平面》 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、p.94の図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。</li> </ul>  |
| ①直方体と立方体  |    | 95～96   | ○直方体や立方体の意味を理解する。                         | 《直方体、立方体、平面》  |  |
|   | 2  | 97      | ○見取図のかき方を知り、直方体や立方体の見取図をかきことができる。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体や立方体の見取図</li> </ul> 《見取図》  |  |
|   | 3  | 98      | ○展開図のかき方を知り、直方体や展開図をかきことができる。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体の展開図とその組み立て、辺や頂点の対応</li> </ul> 《てん開図》                                      |  |
|   | 4  | 99      | ○立方体の展開図をかき。                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・立方体の展開図とその組み立て、辺や頂点の対応、コラム「立方体の展開図」</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>※本時の学習後であれば、p.103の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。</li> </ul>  |
| ②面や辺の平行と垂直  | 5  | 100     | ○直方体の面と面の平行や垂直の関係を理解する。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・面と面の平行・垂直、身のまわりの平行・垂直な面</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※p.100の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。</li> </ul>  |
|   | 6  | 101     | ○直方体の辺と辺の平行や垂直の関係を理解する。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・辺と辺の平行・垂直、身のまわりの平行・垂直な辺</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※p.101の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。</li> <li>※本時の学習後であれば、p.103の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。</li> </ul>                             |
|   | 7  | 102     | ○直方体の面と辺の平行や垂直の関係を理解する。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・面と辺の平行・垂直、身のまわりの平行・垂直な面と辺</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>※p.102の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。</li> <li>※本時の学習後であれば、p.103の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。</li> </ul>                             |
| ●練習   | 8  | 103     | ○学習内容を確実に身につける。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業外で取り組む。(授業内 0 時間)</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul>   |
| ③位置の表し方   | 9  | 104～105 | ○平面上にあるものの位置の表し方を理解する。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次元座標を使った位置の表し方</li> </ul>  |  |
|   | 10 | 106     | ○空間にあるものの位置の表し方を理解する。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3次元座標を使った位置の表し方</li> </ul>  |  |
| 学びのまとめ  | 11 | 107     | ○学習内容の理解を確認する。                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価とふりかえり</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.137 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間)</li> <li>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。</li> </ul> |

| 活 わくわく算数ひろば |   |         |   |  | 指導時数・時期   |
|-------------|---|---------|---|--|---|
|             |   |         |   |  | 3時間 (授業内 2時間)<br>2学期制：3月上旬～3月中旬<br>3学期制：3月上旬～3月中旬 |
| 小単元         | 時 | ページ     | 目 標                                       | 学習内容                                   | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点                        |
| 思 だれでしょう    | 1 | 108～109 | ○示された条件を表に整理し、順序良く推論して問題を解くことができる。        | ・条件に合うものを見つける問題                        |   |
| ●みらいへのつばさ   | 2 | 110～111 | ○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、ごみの量についての問題を解決できる。 | ・表やグラフなどのよみ取り、情報選択 (ももかさんのごみの量についてのメモ) |   |
|             | 3 | 112～113 | ○ごみを減らすことについて話しあい、課題解決に向けた計画を考える。         | ・ごみの量を減らす計画を立てる活動                      | ・計画をつくる活動は授業外で取り組む。(授業内 0時間)                      |

| * もうすぐ5年生 (4年のふく習) |   |         |                 |      | 指導時数・時期   |
|--------------------|---|---------|-----------------|------|---|
|                    |   |         |                 |      | 3時間 (授業内 1時間)<br>2学期制：3月中旬<br>3学期制：3月中旬                             |
| 小単元                | 時 | ページ     | 目 標             | 学習内容 | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点  |
|                    | 1 | 114～115 | ○4年生の学習内容の確認と持続 | ・復習  | ・授業外で取り組む。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内 1時間) |
|                    | 2 | 116～117 |                 |      |   |
|                    | 3 | 118     |                 |      |   |

| ★ 学びのサポート |          |  |  |
|-----------|----------|--|--|
| ページ       | 学習内容     |  | 授業外で取り組める<br>学習活動例と指導上の留意点   |
| 120～123   | ・じゅんび    |  | ・単元前の「じゅんび」に取り組み、QR コンテンツや p.138 の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。 |
| 124～133   | ・もっと練習   |  | ・本時の補充として「もっと練習」に取り組み、p.138～139の解答を参照して答え合わせも行う。<br>※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。   |
| 134～142   | ・算数しりょう集 |  | ※授業内・外問わず、必要に応じて適宜確認させる。   |

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。